

伝統の舞「藤縄神楽」

第47回柳沢ほたるまつりが、6月8日(土)、9日(日)に旧柳沢小学校で開催されました。

会場に設けられた特設ステージでは、愛媛県無形民俗文化財に指定されている藤縄神楽が披露され、会場は大きなにぎわいを見せていました。

この日も多くのホタルによって幻想的な光のショーで訪れた人を楽しませていました。矢落川流域のゲンジボタルは、県指定の天然記念物です。



泥だらけの熱戦を披露

第25回どろんこミニバレー大会が6月16日(日)、白滝公民館柴分館前の水田で開催されました。

大会には、市内外から一般の部23チーム、小学生の部3チームの計259人が参加し、熱戦を繰り広げました。

出場した選手は、田植え前のぬかるんだ土に足を取られ、思うように動けない様子でした。しかし、顔や身体を泥だらけにしなが、懸命にボールをつなぐプレーが見られると、観客から大きな歓声が上がっていました。



第19回 大洲扇面の美展 ～山荘画廊～

第19回大洲扇面の美展表彰式が、6月16日(日)、山荘画廊で開催されました。大洲市内外より多数の作品が寄せられ、会場には個性豊かな作品が展示されました。

入賞したみなさんは次のとおりです。(敬称略)

- | | | | |
|-------------|-------------------------------|--------------|---------------------------|
| ▽最優秀賞 | 橋田 静湖 <small>せいこ さとし</small> | ▽大洲商工会議所会員優賞 | 久保田トシコ <small>としか</small> |
| ▽優秀賞 | 山中 智 <small>ちか とも</small> | ▽佳作 | 中野 麻壽美 <small>あさみ</small> |
| ▽大洲市長賞 | 稲垣 章 <small>あきら</small> | | 青野 通子 <small>みちこ</small> |
| ▽大洲商工会議所会頭賞 | 広沢 さかえ <small>さかえ まもる</small> | | 山家 裕美子 <small>ゆみこ</small> |
| | 藤田 守 <small>まもる</small> | | 岩本 千寿子 <small>ちず子</small> |
| | 上甲 哲子 <small>てつ子</small> | | 白石 礼子 <small>れい子</small> |
| | 増田 ツヤ子 <small>つや子</small> | | |
| | 澤山 繁子 <small>しげ子</small> | | |



最優秀作品「令和の春」 (作：橋田静湖さん)



最優秀作品「令和元年」 (作：山中智さん)

叙勲受章者の紹介

高齢者叙勲



旭日単光章

沖野 恒三 さん
つね かず
 (肱川町大谷)
 元肱川町議会議員

沖野さんは、長年にわたり地方自治業務に尽力されたご功績により、このたび「旭日単光章」を受章されました。

第32回危険業務従事者叙勲



瑞宝単光章

余家 泰教 さん
よ け やす のり
 (若宮)
 元海上保安官

余家さんは、長年にわたり海上保安業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝単光章」を受章されました。



瑞宝双光章

富永 修身 さん
おさ み
 (菅田町宇津)
 元大洲地区広域消防事務組合
 消防司令長

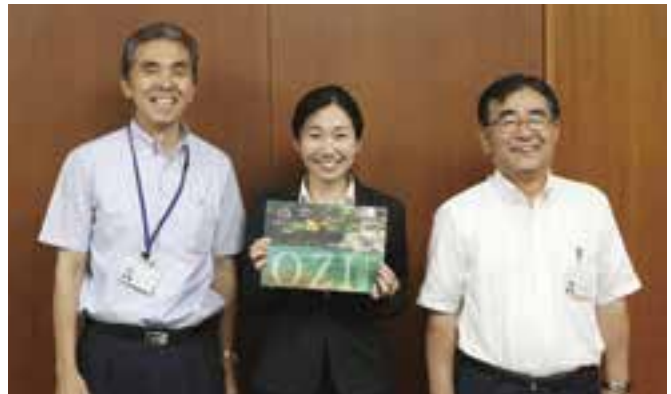
富永さんは、長年にわたり消防業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

青年海外協力隊 表敬訪問

平成30年度青年海外協力隊の一員として、大洲市出身の小嶋さゆりさんが、中央アフリカのカメルーンに派遣されることになりました。

派遣期間は、令和元年7月からの約2年間で、南部州にあるンヴィラ県教育事務所に配属され、小学校教育に携わります。現地の校長・教員との協働授業を通して、現地教員に指導改善の助言・支援を行い、指導手法の向上を図ります。

7月5日(金)に市役所を訪れた小嶋さんは、「私は中



学生のときから海外に興味があった。一時は夢を諦めていたが、もう一度挑戦することを決めた。カメルーンでは、現地の生徒や先生とたくさん関わって、文化や歴史を肌で感じたい。そして、この体験を大洲のみなさんに伝えたい」と意気込みを語りました。

二宮市長は、「日本と環境が違うため体調に十分気を付けてほしい。たくさんの経験を積んで、たくましかった姿を期待している」と激励の言葉を送りました。



地元の魅力、カルタで再発見

地域づくり団体「肱川プロジェクト」が制作した「肱川カルタ」の贈呈式が、6月21日(金)、肱川小学校で行われました。このカルタは、昨年度の卒業生が、写真や文章を考えて作成しました。

普通サイズの「肱川カルタ」3組が贈呈された後には、90×120センチメートルもあるジャンボカルタを使ったカルタ取りが行われました。全校児童86人は、大はしゃぎで地元の特産品や名所、伝統芸能などの絵札を探して駆け回っていました。



親子で確認 心臓病のこと

心臓病をテーマにした「健心祭」が、6月30日(日)、喜多医師会病院で開催されました。5回目となった今回は、子どもたちも楽しめるコーナーが新たに設けられ、多くの親子連れが集まりました。

会場には、さまざまな検査の体験ブースがあり、訪れた人は、自分の健康状態を確認していました。

また、循環器内科の稲葉慎二さんによる「脳梗塞の原因の3分の1は心臓です」と題した講演も行われ、定期的な血圧検査や脈のチェックをするよう呼び掛けました。



救助に一翼 ～水上バイク・オフロードバイクを導入～

平成30年7月豪雨では、消防隊員などがゴムボートで救助活動を行いました。しかし、「浮遊するゴミにより動けなくなった」、「市街地などの狭い場所ではゴムボートは進みにくい」といった意見がありました。そこで、県内の消防本部では初めてとなる水上バイクの導入が決まりました。また、オフロードバイクも2台導入され、土砂災害時などで孤立した集落の情報収集に活用されます。

大洲地区広域消防事務組合による水上バイク・オフロードバイクを用いた救助訓練が、6月28日(金)、緑地公園河川敷および肱川で行われました。

訓練前に行われた出発式では、警防課長の菊岡幸造こうそうさんが、「大洲市では、頻繁に水害が発生している。新しく導入した機器を活用し、住民の安全を確保してほしい」と訓示しました。

水上バイクの訓練では、肱川で溺れた人がいるという想定で始まりました。救助隊員2人が救助を求める人を水上バイクに乗せて救助しました。



消費税増税に備える

消費税増税に伴う

中小・小規模事業者向け支援事業のご案内

10月に予定される消費税率の引き上げおよび消費税軽減税率制度の実施に伴う、中小・小規模事業者などに対する2つの支援策をご案内します。

キャッシュレス・消費者還元事業

【支援対象者】

中小・小規模事業者など

【支援内容】

- ▽中小企業の負担ゼロで端末導入
- ▽加盟店手数料率2・17%以下
- ※期間後の手数料は事前に開示
- ▽消費者還元5%または2%

【ポイント還元実施期間】

令和元年10月1日(火)～
令和2年6月30日(火)

【申し込み方法】

支援を受けるには、次の手順で、加盟店の登録が必要です。

①キャッシュレス消費者還元事業サイト (<https://cashless.go.jp>) から契約する決済事業者を選ぶ。

②選んだ決済事業者へ問い合わせ、本制度参加の手続きを行う。

軽減税率対策補助金

【支援対象者】

軽減税率対象の商品の販売を行っている中小・小規模事業者など

【支援内容】

▽複数税率対応レジ導入支援

・補助率 4分の3

※3万円未満の場合は5分の4

・補助金上限額 1台20万円

▽受発注システム改修支援

・補助率 4分の3

・補助金上限額

発注システム…1千万円

受注システム…150万円

▽請求書管理システム改修支援

・補助率 4分の3

・補助金上限額 150万円

【導入・改修完了期限】

令和元年9月30日(月)まで

【補助申請受付期限】

令和元年12月16日(月)まで

【申し込み方法】

詳細は、軽減税率対策補助金サイト (<http://kzt-hojjo.jp>) をご覧ください。

【問い合わせ先】

▽キャッシュレス消費者還元窓口

☎0570(000)655

※IP電話などは、

☎042(303)4203

▽軽減税率補助金事務局窓口

☎0120(398)111

☎0570(081)222

▽商工産業課 ☎241722

野鳥



イソシギ (磯鷗)
チドリ目 シギ科
全長 20cm

四季を通して、水辺で出合えるシギの仲間です。一番の特徴は、上下の尻ふりダンス。「石たたき」と呼ばれるキセキレイもよく振りますが、負けず劣らずフリフリして、水際の水生昆虫などを捕らえます。

地味で見分けの付きにくいシギたちですが、脇腹の白い部分が翼の付け根まで見えるのが識別の決め手です。多くのシギはシベリアや北極圏で子育てをしますが、イソシギは日本でも繁殖する数少ない種類です。

水際で生活するのは、気候に左右されやすく、最近の異常な気象状況に、人を含む生き物たちにも容赦なく試練が襲いかかっています。手遅れ感がありますが、今からでも手を打たないと、温暖化を突き進めている人類が大災害を誘発しているようではありません。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

文化財



おおがし
大貸のヤマモモ
大洲市指定天然記念物
個人所有

この木は、大川地区の脇川左岸山間部の大貸(標高300m前後)にあります。樹齢が推定約300年になっても樹勢は旺盛で、毎年多くの果実をつけます。

果実は1~2cmの球形で、夏になると暗紅紫色あんこうしよくに熟し、生食のほか、ジャムや果実酒などにも加工されます。また、かつて大洲地域の一部では、樹皮が茶色染料として用いられるなど、日常生活との結びつきが強い種でした。現在は、街路樹や庭木として、市内でも頻りに植栽されています。

目にする機会の多いヤマモモですが、この木は樹高約14mと市内では最大級の大きさを誇り、また樹齢も古いことから、貴重なものといえます。

(平成4年10月27日指定)

地域医療の未来を考える

～医療の現場から～ No.2

特定医療法人弘友会 加戸病院



診療科目	内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・ 外科・消化器外科・肛門外科・整形外科・ 脳神経外科・リハビリテーション科
診療時間	午前9時～午後0時30分、 午後2時～5時（要予約）
休診日	土曜午後・日曜・祝祭日
所在地	〒791-3301 喜多郡内子町内子771番地
電話番号	0893-44-5500
公式HP	http://kato-hp.jp/

加戸病院は、昭和47（1972）年、大洲市若宮に加戸外科病院として開設されました。平成23年には、内子町の誘致を受け、内子町内子に病院を移転しました。診療科目は10科があり、2代目院長である加戸秀一しゅういちさんのもと、地域のみなさんが健康で安心して暮らせるよう、良質な医療が提供されています。

加戸病院では、昭和三十九年、大洲市若宮に加戸外科病院として開設されました。平成二十三年には、内子町の誘致を受け、内子町内子に病院を移転しました。診療科目は十科があり、二代目院長である加戸秀一さんのもと、地域のみなさんが健康で安心して暮らせるよう、良質な医療が提供されています。

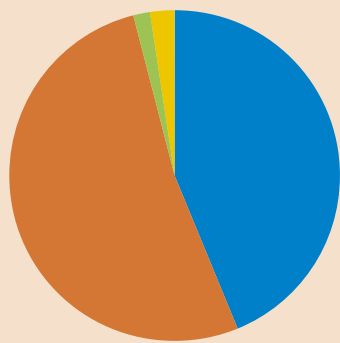
加戸病院は、昭和三十九年、大洲市若宮に加戸外科病院として開設されました。平成二十三年には、内子町の誘致を受け、内子町内子に病院を移転しました。診療科目は十科があり、二代目院長である加戸秀一さんのもと、地域のみなさんが健康で安心して暮らせるよう、良質な医療が提供されています。

特定医療法人弘友会は、加戸病院の他に、老人保健施設フレンド

救急患者受け入れ体制・概要・現状

加戸病院は、救急告示病院として、救急患者の受け入れを行っています。内子町内では、唯一の二次救急を担う病院です。大洲喜多地区内の病院で構成する輪番制では、毎週水曜日を担当しています。加戸病院の夜間当直の体制は、医師1人、看護師2人、放射線技師1人、事務員1人の計5人が担当しています。

平成30年度救急患者受け入れ概要 ※水曜日のみ



受け入れ患者数	546件
そのうち救急搬送受け入れ	304件
入院	239件
外来	285件
死亡	9件
転院	13件

加戸病院における平成30年度の救急受け入れ患者数は、546人であり、そのうち、55パーセントの304人が救急車での搬送によるものでした。治療の処置状況で分けてみると、通院や入院などを必要としない外来として処置された患者は、全体の半分以上を占めています。



10年後、将来の医療を考える

現在、大洲喜多地区の救急医療体制は、地区内の病院で構成する輪番制で成り立っています。それぞれの病院が担当する曜日を持ち、休日や夜間にも対応できるようにしていますが、この救急医療体制は、10年後には維持できなくなるのではないかと危惧しています。

その理由の一つは、救急医療を担う医師の高齢化です。このような状況では、医師の誰か一人でも倒れると、ドミノ倒しのように輪番体制は崩壊するでしょう。木曜日と日曜日の夜間救急は、八幡浜市まで行っていた



加戸病院 院長

加戸 秀一 さん

の苦肉の策です。

また、近い将来、深夜（午前0時から8時30分まで）の救急は、広域の医療圏（大洲喜多地区、八幡浜市、西予市）で持ち回りになる可能性があります。それほど現在の救急医療体制は追い込まれている状態なのです。

救急医療に携わるスタッフは、患者さんや地域に対する想いだけで救急医療を続けています。このような状況になった原因は何なのか。日本医師会総合政策研究機構によると、大洲喜多地区は、県内の他の医療圏と比べ中核病院がないと指摘されています。そのため、若い医師が集まりにくく、地元出身の医師や看護師が地元を離れ、戻ってこないのでしょうか。

この構造的な問題は、地域の医療関係者や自治体で解決しなければならぬ問題です。今治や宇和島出身の若い医師からは、いづれ地元に戻るといふ言葉をよく聞かれます。地域の子どもたちとの関わりを深く持ち、「いづれ地元に戻る」という郷土愛を育てる環境を作る必要性があると思います。

救急医療の

現場から



加戸病院 管理師長

兵頭 常子 さん

2次救急医療を担っています。人手不足が深刻化していて、救急医療の存続が厳しい状況となっています。

地域の救急医療体制を存続させるために、8年前から大洲喜多休日夜間急患センターで、初期医療の対応ができるように整備されました。しかし、2次救急医療との役割分担が明確になった現在でも、2次救急医療機関が、軽症患者を受け入れ、医師や看護師の負担が増加している現状があります。入院治療などを必要とする重症の患者が、即時に適切な医療を受けられる体制を維持することが必要とされます。

加戸病院では、昨年度より院内トリージを導入しました。患者さんの状態を確認し、治療の緊急度に応じて診察の優先順位を決定し、早急に治療を受けられる体制を整えています。

今後も、地域の救急医療体制を堅持するために、また、安心して医療を受けていただくために、地域のみなさんには、救急医療の適切な受診のご協力をお願いします。